

ネズミの対策

家・牛舎・パラー・バンカーなど、様々な場所で見かける厄介者がネズミです。ネズミは、サイレージシートに穴を開ける場合や電線ケーブルをかみ切ってしまうだけでなく、病気の原因菌を運んでしまうなど、衛生の観点から対策が必要です。

〈ネズミの生態〉

ネズミは夜行性で主に日没後と夜明け前に活発に活動します。また、繁殖能力が高く、妊娠期間は約21日、一度の出産で平均4匹ほど出産します。生まれた子ネズミも1ヶ月ほどで交尾を始めるため、かなり速く増殖します。

〈日本で問題となるネズミ〉

日本の畜産現場で問題となるネズミは、①ドブネズミ②クマネズミ③ハツカネズミの3種です。中でもクマネズミは、警戒心が強く駆除が難しいとされています。今回は、そのクマネズミを中心に紹介します。

〈クマネズミの生態〉

体長…14～20 cm
体重…100～300 g

体に対して**尻尾が長い**ことが特徴です。また**跳躍力**があり、天井や梁

配管のライン上を走ります。知能レベルも非常に高く、警戒心が強いため、畏などにかかりにくく、駆除が困難です。

跳躍力に優れる

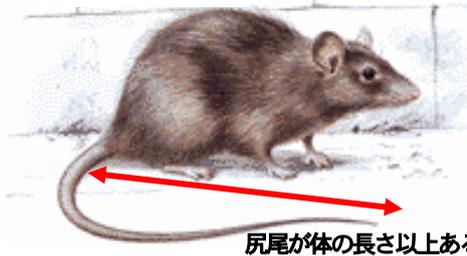


写真1 クマネズミの特徴

(参考：クリーンな鶏舎 20 のアイデア)

横関 正直・山本喜康著

〈具体的な対策〉

ネズミ駆除に向けた作業方法は、大きく3種類に分類されます。

1 環境的方法

ネズミが住みにくい環境を整える方法です。ネズミの生息条件は、①餌があること②巣が作れること③通路があることです。これらを取り除くことが重要です。

○餌をなくす

ネズミの餌になりそうなもの(飼料・生ゴミ等)の管理を徹底することが必要です。蓋付きのゴミ箱を使用

することや、飼料袋をきちんと閉じることが重要です。

○ネズミが寄りつかない環境

畜舎では敷料等の資材が欠かせないため、ネズミの巣が作りやすい環境にあり、これらを完全に排除することは出来ません。そのため、畜舎に寄せ付けないような工夫が必要です。

例として、畜舎周りの雑草は、天敵である鳥などからネズミを隠してしまいます。**畜舎周りの陰翳**を行うことで、ネズミが天敵に見つかりやすい環境になり、ネズミを畜舎から遠ざけられます。また、畜舎周辺と同様、**バンカー周囲の舗装**を行うことにより、バンカーにネズミが寄りつきにくくなります。



写真2 舗装されたバンカーサイロ周辺

そのほかに、クマネズミは跳躍力が高く、配管の外や内側もよじ登るため、配管の口を金属の蓋等で塞ぐことも有効です。

2 物理的方法

器具や器材を用いてネズミを捕殺することや、侵入できないようにする方法です。クマネズミの場合1.5 cm以上の穴は通り抜け出来るため、そのような穴を金属製の板で塞ぐことや粘着シート、捕殺器等を仕掛けるなどが挙げられます。



写真3 配管の口を塞ぐ

3 科学的方法

専用の殺鼠剤を使用する方法です。毒餌を仕掛け、ネズミに食べさせることで、駆除を行います。効果が薄い製品の場合、毒が上手く効かず、ネズミの警戒心を煽る可能性が高いため、効果が認められている専用の資材を使用することが望ましいです。

どれかひとつの方法で駆除出来ることは少なく、いくつかの方法を試し、組み合わせることが重要です。具体的な作業などは、普及センターにご相談ください。